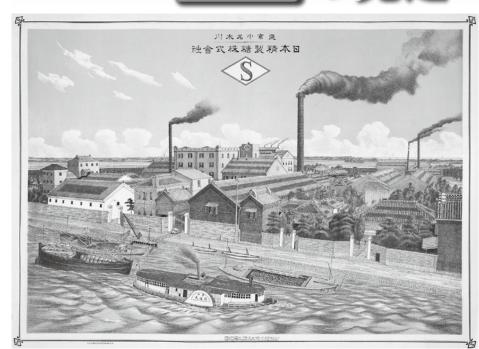
#### 江戸から明治へ

#### 区内河川







市中で販売されました(詳細は2頁)。

な

から貝殻が集積される流通拠点となり

· 商品化

(漆喰)

されると、

江

上:日本精製糖株式会社 下:大日本製糖株式会社(日本精糖株式会社と合併後) 左:東京第一工場(写真)右:東京第二工場(写真)

は

が

面

下

糖き28

株 年 砂 が

糖

NO. 2016.1.15

発 江東区地域振興部 文化観光課文化財係 〒135-8383 江東区東陽4-11-28 TEL(03)3647-9819

http://www.city.koto.

ℓg.jp/

- ○江戸から明治へ 区内河川と産業の発達
- 「深川浜十三町」
- ○町の歴史から時代をみつめ、発見する 中川船番所資料館企画展示
- 「旧家に残された資料から見る大島の歴史」~
- ○深川江戸資料館企画展 「長屋~住まいと暮らし~」
- ○平成27年度芭蕉記念館後期企画展 時代を駆け抜けた女性たち 布絵で描く『おくのほそ道』 −山鹿文子の布絵の世界
- \_\_\_\_\_ ○所蔵資料紹介

「深川区石島町九番地 渡辺半三郎邸宅図」

水運をめぐる歴史

江東区を象徴する河川は、

区内だけ

江戸・東京の物流をも支えて

- ○文化財まめ知識6 江東区内の石造燈籠
- ○ここにも歴史があった

が設けら 起因します。 深川南部の町人地は、 武家屋敷が設置されました。 |戸時代にはじまる埋め立ての歴史に ました。このような水辺の景観は 区内各所に諸藩の蔵 河川や海沿いには、 江戸内湾の各 また、

横川に 式会社 王と呼ばれた鈴木藤三郎 立されました。上の絵は、 ていたことから、 船「第五通運丸」がした小名木川には、 [1895] に設立した日 第一 家の他の工場で製造した煉瓦を、 治という時代の変遷を伝えて 河川沿 6・7頁で紹介している渡辺家も、 代は江戸から明治へ変わっても、 流通拠点になっていたのです。 治になると、 面 ・第二工場の写真)。 (現北砂5-20・ した石島の地で保管・ いを中心に多くの工 河川に面したこ が描かれ、 大名屋敷はなく 和船とともに蒸気 21 が、 のちに 本 江戸 工場 です 精が明 管 製い 治 場

13 か

ま

河川の重要性は変わりませんでした。

0

#### 江 戸の町内 深川浜 町

町」です。 たのか、 を含む地域の総称でした。この町がど ありません。その名のとおり、 のような町で、このような町名が付い 元木場町」 向 実はこの町は前号で取り上げた 取 詳しくお話しましょう。 り上げる町は、 あまり馴染みのない町名で 同様、 一つの町の名では 「深川 13 の 町 浜十三

## 浜十三町って、どんな町?

内の町が書き上げた「町方書上」のうち、 前半です。 内容に、その記述は見られます。 その町名が史料に現れるのは、 岡付近)に展開した町の総称でした。 在の永代・福住・深川・門前仲町・ には文政11年 深川熊井町 浜十三町は、 幕府の要求に基づき、 (現在の永代1-1付近) (1828) 7月の年号 深川南部地域一 19 世紀 帯 書上 御府 現 0 富

が記されていますので、当時「里俗」 ていたのは間違いありません。 の人々)の間で、そのように呼ばれ 地

域

丁目・上弐丁目)、東黒江町、蛤町分 唱覧を発 町は含まれていません。 りましたが、13町には清住・佐賀の両 半町)、永代寺門前町」 十三町は猟師 13町でした。もともと、この付近には「深 たことがわかります。 「浜十三町」には、 猟師町」(清住・佐賀・相川・熊井・ 共住居之所 書上には、 富吉・黒江・大島の8ケ町) 中嶋町、熊井町、 と記されていることから、 蛤町分 「町内並外拾弐ケ所、 (漁師) の居住地であっ 里俗惣名浜拾 ?(横店・壱丁目・弐町、奥川町、黒江川、 猟師町に含まれない 相川町分 その町は、 これに対して、 (図1参照) (相川町 三町 「大嶋 があ 浜 0) نح 猟

④⑤蛤町壱丁目・弐丁目 ⑥蛤町上弐丁目 ⑩相川半丁 ⑪鎖井町

※③蛤町横店の場所不明(④⑤に存在した可能性あり) ※出口『江戸内海猟師町と役負担』を改変し引用 浜十三町詳細図

ます。 くまで地域で呼ばれていたものでした。 総称でしたが、この「浜十三町」はあ に住んでいたとの解釈が成り立ちます。 師は住んでおらず、 0 中 ちなみに、「猟師町」 4ケ町が含まれている点が注目でき 嶋町・奥川町・ この当時、 猟師町の一部には猟 蛤町・永代寺門前町 含まれない4ケ町 は、 幕府公認の

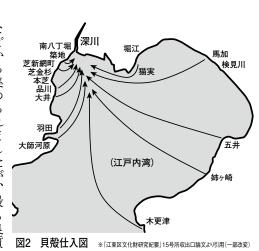
#### 貝殻流通の拠点

2

蜊などの貝生産には適した場所でし 洲が広がっていたため、牡蠣、蛤、浅 洲が広がっていたため、牡蠣、蛤、浅とは貝殻でした。内湾の沿岸部には砂 殻が重要になります。 るため採りますが、 た。貝といえば、 点でもありました。その「あるもの 湾で生産された「あるもの」 師居住地というだけではなく、 点を確認しましたが、 さて、浜十三町は猟師居住地という ここでは残った貝 般的には身を食す この町は単に猟 の流通 江戸内

諸髪川

馬加 品川、 灰貝灰」(『諸色調類集』、 た。しかも、 や塀などの漆喰として利用できまし とから、焼いて、砕いて、 から切り出す大変さもありません。「石 貝殻は、石灰とほぼ同成分であるこ (千葉市幕張) 東側は木更津、姉ヶ崎 羽 畄 によれば、 石灰のように石灰岩を山 大師河原 )、堀江·猫実 湾の西側では、 (川崎市) 国立国会図 練ると、蔵 (市原市)、 (浦安市 など 芝、



のものは深川浦で採れた牡蠣殻でしたなどから集められましたが、最も良質 図2参照

木川、 縦横無尽に走る浜十三町は、 うち9人までが江東区内の竪川、 送手段は船ですので、 あげることができます。 るでしょう。 通拠点として最適な場所だったといえ た。そのことから、海に近く、 で運ばれたと考えられます。 く竈持ち仲間は10人いましたが、 に集積された背景には、 このように、湾内の貝殻が浜十三町 大横川沿いに竈を持っていまし 大量の貝殻は船 当時の主な輸 水運の発達 まさに流 貝殻を焼 水路 小名 その

という二つの顔をもった浜十三町につ 以上、 てご紹介いたしました。 猟師居住地と貝殻流通の 拠点

(文化財主任専門員 出 [口宏幸)

# 町の歴史から時代をみつめ、発見する

## 中川船番所資料館企画展示

# ~「旧家に残された資料から見る大島の歴史」~

### 《富野家が見つかった》

も分からない中での、先方からのお知 るのか、それより家が続いているのか ら28年間見続けてきた石碑でした。 と言う人の名が刻まれていたことに気 を通ったら、「子安稲荷社」と刻まれた、 思っていたのですが、しばらくして家 なんかどこかで見た名前だなあ?と う話を聞きました。「とみの」さんねえ、 という人のお屋敷があったんだ」とい 島の竪川辺に『とみのきへいじ』さん 調査に伺いました。その時、「昔、大 専門員として、西大島駅前の羅漢寺へ した。こちらからはどこにいらっしゃ れていた資料が昨年、区に寄贈されま づきました。私にとっては生まれてか 大正6年(1917)の標石に刻まれ のそばの子安稲荷神社(大島3)の横 その富野さんのご子孫から、所蔵さ 昭和6年(1985)筆者は文化財 建立者氏名の筆頭に、「富野鍬吉」

#### 《調査と展示》

寄贈された資料は、昭和初期の大島

重な歴史の証言者です。 害にあった大島にとってはいずれも貴 神社の扁額などです。空襲で大変な被 神社の扁額などです。空襲で大変な被 が地元の子安稲荷社上棟式の写真(下)、 ないです。空襲で大変な被

担当した文化財専門員によれば、まる、とのこと。ぜひ拝見したいとの思る、とのこと。ぜひ拝見したいとの思る、とのこと。ぜひ拝見したいとの思る、とのこと。ぜひ拝見したいとの思を伺いながら資料を拝見しました。いを何いながら資料を存状態は良好で、古ずれも資料の保存状態は良好で、古ずれも資料の保存状態は良好で、古ずれも資料の保存状態は良好で、古が、大島3丁目町会発会式記念写真れ、大島3丁目町会発会式記念写真れ、大島3丁目町会発会式記念写真など、戦時中に大島から世田谷に疎開など、戦時中に大島から世田谷に疎開され、そのまま定住したからこそ残された資料です。

者)の「喜び」「ワクワク」「ハラハラ」「どと考えました。ここから展示担当者(筆蔵資料をあわせて、展示を構成しようすでに寄贈していただいた資料と所

巡りが始まりました。うしよう!」「なんとかなるさ」の堂々

今回のねらいは、富野家の歴史というよりも、富野家が所蔵してきた資料を柱に、戦前期の大島の歴史、とりわけ今の大島地域が大島村・町として一つにまとめられ、震災後城東区が成立つにまとめられ、震災後城東区が成立し、町会組織が生まれたことといった、し、町会組織が生まれたことといった、し、町会組織が生まれたことといった、し、町会組織が生まれたことといった、時代に続く地域形成に、当時の地主や住民、寺社や学校、役所がどのように関わったのかを、その時代の新しい町を作ろうとする熱気とともにごらんいを作ろうとする熱気とともにごらんいを作ろうとする熱気とともにごらんいないでは、富野家の歴史といったも、富野家の歴史といった。

### 《来館者のみなさん》

こんな地域限定のマニアックな展示では、興味がもたれなかったらどうしよう、などと思っていましたが、貴重な戦前の資料としてみていただきました。ちょうどはとバスが何便か来てくれた時期だったのですが、都内・近県からの来館にもかかわらず、ご自分の地元の寺・神社のことなどを話しながらみていました。一方、展示の舞台、大島3丁目からも町会長さんはじめ20人近い方々が見えられて、特に戦前から住んでいる方がほかの町会の方に説

度行ったことも功を奏しました。の方もいらっしゃって、他の展示のとした。期間中ミュージアムトークを2の方もいらっしゃって、他の展示のと明していました。さらに富野家ゆかり

#### 《小さな展示でも》

とは喜びでした。
た正・昭和初期のどこにでもあった東大正・昭和初期のどこにでもあった東

者は企画展示としては最多です。 さのとは違う、ごく小さな地域の歴史 にどんな大きな歴史が潜んでいるのか、 にどんな大きな歴史が潜んでいるのか、 これを知っていただくことこそが地域 の郷土資料館が果たすべき役割です。 古写真や古地図などありふれた資料が、 「歴史の証言者」として輝いてくれた場 面でもありました。1691人の来館



子安稲荷社上棟式(大正6年5月)活気、熱気にあふれた

(中川船番所資料館 久染 健夫)

#### 深川江戸資料館 企画展

## )住ま と著ら

会期 11月10日 (火)~平成28年11月13日(日) ——

地域でもあります。 ら暮らしました。とりわけ深川は江戸 まざまな工夫をこらし、 中心になるのは「長屋」です。最小限 物大で再現しています。その中でも、 の限られた空間の中で、 江戸時代末期、 での中でも長屋が数多く建てられた 深川江戸資料館の常設展示室では、 深川の庶民の町並を実 助け合いなが 住民たちはさ

に描かれた長屋に住む人々の暮らし、 た江戸の町の特色と背景、さらに資料 住まいの歴史など、さまざまな角度か である「深川佐賀町」と長屋が誕生し 今回の展示では、常設展示室の舞台



上げていま す。ここで

についてご 川と長屋 は主に「深 介し ま

111

## 過密都市・江戸の長屋

ちの約70%が住んだといわれるのが 地で庶民は暮らしました。その庶民た 江戸の町の中の約20%の限られた町人 界最大の100万都市となりました。 が集まり、江戸時代中期には当時、 には、諸国から武士・職人・商人など 「長屋」です。 日本の総城下町となった江戸。 江戸 、 世

活道具を整えました。さらに井戸、厠集、照明具など、生活に欠かせない生

長屋では限られた空間の中で台所道

角にあり、長屋の住民たちが共同で使

(便所)、芥溜、

稲荷社などが長屋の

い生活をしていました。

朝

 $\exists$ 

昼

店)に主に建ち、九尺二間 などさまざまな間取りがありました。 の間取りを基本とし、平屋、 長屋は表通りに面した表店の裏 (四畳半 一階建て (裏き



「浮世床」式亭三馬作·歌川国直画 文化8年(1811)江戸東京博物館蔵

3. 深川地域の人々 を行なっていました。

#### 2 深川の長屋

長屋は江戸市中いたる所に建てられ

える大きな役割を担いました。このた 物流の拠点(倉庫街)など、江戸を支 水運の利便性の高い江戸の新開地でし

そのため猟師町、木場(材木置場)、

にあたり、海にも近接している深川は、 江戸の中心部と隅田川をはさみ対岸 などが特色です。三井越後屋など江 心部に比べて、敷地に余裕があること 地が1間半もある所もあり、江戸の中 貸蔵が多かったこと。さらに長屋の路 の町中で店借率が最も多かった地域は われる神田辺りで約70%でした。江戸 かったと思われます。職人が多いとい 借率は約23%。大店などの持ち家が多 日本橋の中心部 所持する家や屋敷を賃借して居住する 深川で、約82・5%といわれています。 深川の町屋敷の特色は水運の便から の割合は異なりました。 (本町・本石町)の店 例えば、

4. 庶民の暮らし

送りました。

が多く住んでいたと思われます。これ

らの人々は長屋を舞台に日々の生活を

江戸前の魚や貝を捕る猟師などの人々

さり売りなど魚介類の棒手振、 ら荷物を運ぶ小揚などの舟運関係、

船頭や

あ

一 湯 裏げきのなめる

える資 業を支 店も本 戸の大

産とし

川で長

屋経営

「深川北川町三井家屋敷図」 (江戸抱屋敷絵図)文化4年(1807)三井文庫蔵

も炊事、 間は男性は仕事に励み、こどもたちは 長屋の木戸が開く頃に起床します。 の手伝いなどとして働きました。 昼過ぎまで寺子屋に通いました。女性 の入りと共に寝るサイクルでした。 などの洗濯を専業とする仕事や、 長屋の住人は日の出と共に起き、 洗濯、育児以外にも洗い張り

商売

を見学いただき、 戸深川の町並みの長屋と一緒に企画展 暮らしの舞台でした。常設展示室 ってください。 このように、「長屋」は江戸庶民 「長屋の世界」を味 江 0)

#### 【問合せ】深川江戸資料館

03 (3630) 8625

ましたが、地域ごとに店借

他の人の

木場で働く木挽職人や川並、

船

か

# 平成27年度芭蕉記念館後期企画展

# ◇時代を駆け抜けた会性たち

# 布絵で描く『おくのほそ道』→山底文子の布絵の世界

平成27年 12月23日 (水·祝)~平成28年4月24日 (日) ———

す。その中から代表的な人物6人を紹 を生きた女性の作品を取り上げていま 蔵する資料の中から、 介しましょう。 の展示では、 芭蕉記念館で所 それぞれの時代

#### ①安達千代野 (生没年未詳

の「千代能がいたゞく桶の底ぬけてみ して無着と称しました。左は千代野 夫の北条顕時も連座したため、 づたまらねば月もやどらず」の歌にち (1285) の霜月騒動で滅ぼされ、 鎌倉時代中期の武士・安達泰盛の娘 父の泰盛と安達一族が弘安8年 出家

絵師・月岡 なんで、明 た肖像画で 芳年が描い 治期の浮世

安達千代能肖像(月岡芳年筆)

# ②河合智月 (17世紀半ば~1708頃)

ぎてから松尾芭蕉の門人になりました。 江左尚白に俳諧を学んだのち、『近江国大津(滋賀県大津市) 芭蕉が大津を訪れるたびに衣食の 50歳を渦 の人で、



## 河合智月筆「二つあらば」 句短冊

庵記』を与えられ、2年後に芭蕉が亡 くなった後は追善供養に努めました。 世話をするなど親交を重ね、 〔1690〕には芭蕉から自筆の『幻住 元禄3年

# ③度会園女 (1664~1726)

会) 一有に嫁ぎ、松尾芭蕉が伊勢を訪まれ、同地の医師で俳人の斯波 (度 伊勢国山田 (三重県伊勢市) に生 後に芭蕉は亡くなっています。夫の一 蕉から句を贈られましたが、その14日 坂 俳諧を続け、 有と死別した後は江戸へ出て、 れた際に門人になりました。のちに大 富岡八幡宮の門前で眼科医をしながら (1692) 9月に大坂を訪れた芭 (大阪府大阪市) へ移住し、元禄5 享保11年 (1726) に 深川の

⑤野村望東尼

(1806~67)

「もと」。



1丁目の雄 江東区白河 した。墓は

亡くなりま

た。

尊攘派処断に連座して姫島

松院にあり

市)で亡くなりました。

慶応3年に三田尻 に流されましたが、

# 4小川秋色(1669~1725)

角の門人として活動し、其角の点印(俳夫の寒玉とともに芭蕉の高弟・宝井其 画家の渡辺崋山が描いたものです。たった。左の肖像画は江戸時代後期の武士 諧の添削に使った印章)を継承しまし になるなど、多くの説話があります 詠み、この桜が「秋色桜」として評判 寺の清水観音堂の脇にあった桜を句に 菓子屋に生まれ、13歳の時に上野寛永 江戸小網町(東京都中央区)の老舗

本名は燁子。九州の炭鉱王・伊藤云大正天皇の生母・柳原愛子の姪で、

右衛門と再婚しましたが、

大正10年

〔1921〕に宮崎龍介と駆け落ちし

野村望東尼筆「おほみよを」歌短冊

とうわれてかちし!

)柳原白蓮

(1885~1967)



小川秋色肖像

かうっているける

冷落

一ろよの 川そいのかび

に夫となる宮崎龍介の短冊と並べて展 心境を詠んだとされる歌の短冊を、

示しています。

示では、筑紫

(福岡県) に嫁いだ時

後 0) 歌人としても知られており、今回の展

た事件で、

大きな話題になりました。

(渡辺崋山筆『俳人肖像』)

## 柳原白蓮筆「水にうつる」歌短冊

国臣・西郷隆盛らとも親交がありましたまな。 ぎ、夫の死後に剃髪して望東尼と称し、 福岡藩士・浦野勝幸の娘で本名は 慶応元年(1865)に福岡藩の 同じ福岡藩士の野村清貫に嫁 (山口県防 翌年に救出 (福岡県糸 勤皇の 月・与謝野晶子・林芙美子など、主にばっょきのもまではですみここの他にも、清水千賀女・太田垣蓮 をご堪能ください。 再現された芭蕉の 文子氏(平成15年没)の作品「奥の細道」 歌を中心に、全29点を展示しています。 近世〜近代に活躍した女性の俳諧・短 【問合せ】芭蕉記念館 34点を展示します。布絵で 「奥の細道」の情景

和歌を大隈言道に学ぶ一方で、

03 (3631) 1448

# 所蔵資料紹介

# 深川区石島町九番地 渡辺半三郎邸宅図」

銅版画が流行しました。 社・名所などを精細で写実的に描いた 治中期には、こうした特定の商店や寺 視点で俯瞰的に描いた銅版画です。明 島(現江東区石島)に構えていた邸宅 ガ製造販売業者渡辺半三郎が深川区石 鳥が空から見下ろしているような 図 1 は、 薪炭卸商・レン

渡辺半三郎自らが広告媒体として作成 行なっています。精行社は、 版行は浅草の印刷業者精行社銅版部が 邉謹白」などと書かれていることから、 従来薪炭業ヲ営ミ」(傍点筆者註)「渡 集を刊行したことで知られています。 や名所、商店などを題材とした銅版画 したものと思われます。 図1中の囲み書き部分に、「幣店ハ 作成年代は明治27年(1894)6 土方雲外写生、伊藤良之助彫刻, という本資料と同じような寺社 『日本博

してレンガ(当時は煉化石)に着目し 工業発達のなかで、近代建築の資材と 薪炭業を営んできたが、 同じ部分の記述から、渡辺家は元来 明治維新後の

> は明治初年頃と推定されます。 業ニ従事致シ」とあることから、 て、レンガ製造業を始めたとあります。 | 日二廿有余年間ノ煉化製造及販賣ノ

明治27年

#### 邸内の様子と立地

座敷の前面には立派な和風庭園が築か 母屋があり、表が商店、奥が座敷となっ とした舟遊びも楽しめたようです。 れています。池には小舟もあり、ちょっ ています。商店の裏に土蔵が付属し 表門を入ると、平屋建て和風建築の 資料に描かれた邸宅の様子をみる その業態の一端がうかがえます。

2)。この描写は、同家の経営のなかで 薪が山積みになっています 塀や煙突にレンガが使用されています。 ます。これは同家がレンガ製造業も行 能を有していたことを示しています。 で建てたものと思われます。ほかにも なっていたことから、自社製のレンガ もう一つの蔵はレンガ造りとなってい 石島邸宅が薪炭卸商店・薪炭倉庫の機 敷地の右側は商品の在庫置き場で、 方、母屋を挟んで画面右側にある (左頁図

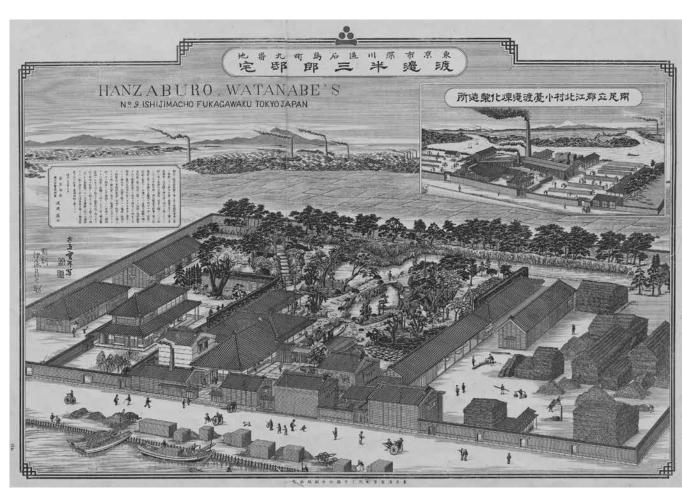


図1 「深川区石島町九番地 渡辺半三郎邸宅図」全体



面 白いのはこの保管スペー を「手斧」で製材

かも舟運による資材運搬に適した川沿 達が容易な木場に近接する場所で、 下ると仙台堀川を越えてすぐのところ が大横川にあたります。この川を南に 下にも河川が描かれていますが、これ す。石島9番地は、 沿岸に位置しています。右頁図1の左 これらの材木をどこから調達したの 材木の貯蔵地として有名な木場に は石島邸宅の立地から推測できま おそらく、 ちょうど大横川の 必要な材木の調

また、

ませんが、奥にある小屋にも複数の角 材が保管されています。 れるのか、資料を見る限りではわかり スの一角で「角材」 している様子が描かれていることです (図3)。この角材が何のために使用さ



図3 手斧での製材風景と角材置場

#### 石島邸宅の役割 という意図があったと思われます。 いの場所に倉庫を兼ねた邸宅を構える

り、 積みするための河岸場も確保されてお 渡辺煉化製造所で生産されていました 南足立郡江北村 あることが、レンガ製造販売業にも活 われています。しかし、レンガ自体は しのほかにレンガの積み下ろしも行な を拡大したものですが、 かされています。 います)。 (右頁図1の右上に製造所が描かれて しかも、この倉庫兼邸宅が川沿 ここから石島邸宅に運搬して保管 工場の近くには、 図4は大横川の部分 (現足立区) にある 薪の積み下ろ 製品を船

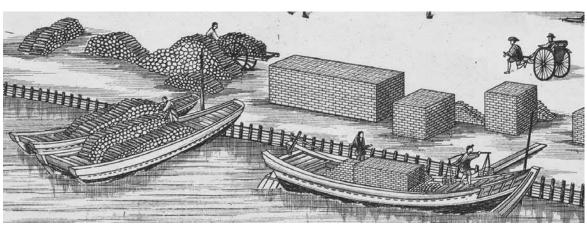


図4 大横川での薪とレンガの積み下ろし

はとても便利だったことでしょう。つ ていない当時の運搬手段として、舟運 したと考えられます。 自動車による輸送が普及し レンガは非常に

> まり、 製品を東京の取引先に納品するまでの 保管施設としての機能も有していたの ではないでしょうか。 石島邸宅は、製造所で完成した

注していることがあげられます。また、 同家はその後も江北村の煉瓦工場敷地 浄水場)からレンガ3万本の納入を受 東京市淀橋浄水工場(のち東京都淀橋 成年代と近い明治28年 (1895) に、 経営は順調だったと思われます。 や施設を拡張しようとしており、 確認できる事例としては、 かりません。 に出荷されたのか、 石島邸宅で保管されたレンガがどこ 唯一、渡辺煉瓦の取引が 詳細はほとんどわ 銅版画の作 その

担わせていたと考えられます。 管―納品」という流通過程を構築し、 のレンガ製造業において、「製造―保 発達した水運を活かして、東京近郊で 石島邸宅にこのうちの 渡辺半三郎はこうして、 「保管機能」 深川地域 を

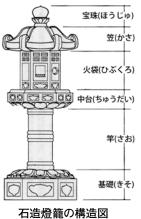
を深川に置いていたのであり、 が東京に出荷する商品の「保管拠点 通モデルは、決して渡辺家の事業特有 のあり方をよく示しています。 まち深川」(つまり「保管のまち深川」) 三郎の石島邸宅は、そうした「倉庫の のものではなく、当時は多くの事業者 このような深川の水運を活かした流 渡辺半

(文化財専門員 斉藤照徳

#### 文化財 東 区 まめ知識6 内 9 一石造燈

寺(奈良県葛城市)のものです。 で、日本で現存する最古のものは当麻 以降です。この石造燈籠の源流は中国 が置かれるようになるのは、 献灯する仏具ですが、神社に石造燈籠 された燈籠です。 石造燈籠とは、 燈籠は仏前に立てて 石を材料として製作 平安時代

ため石造燈籠を寺社に奉納するように 対で置かれるようになり、また祈願の 石造燈籠を奉納するようにもなりまし 権力者の廟や社に、 その後、 さらに将軍や大名など、当時の 安土桃山時代頃から2基 恩顧を受けた人が



で構成されています。 礎・竿・中台・火袋・笠・宝珠の各部 そ きお ちゅうだい ひばくる かき ほうじゅ 石造燈籠の構造の基本は、下から基 文字どおり灯をともす所であり、 その中で火袋と 下から基

見られます。 ては、八角型・ 六角型・ 兀 角型が多く

り、富賀岡八幡宮(件が登録文化財(建学 亀戸天神社 く残されています。 江東区では、 (亀戸3・8基) (建造物 (南砂7 寺社を中心に64 となってお などに多 8基)、

## 著名人が奉納した石造燈籠

落語や歌舞伎で知られる人物が奉納し たものも残されています。 燈籠には、 現在、江東区内に残されている石造 大名などの武士だけでなく

朝の人情話や芝居た。その一生は、 されたものです。 名となりました。 から身を起こし、 の人情話や芝居に取り入れられて有 石造燈籠 は天明元年(一七八一)に奉納 塩原太助奉納 薪炭問屋を営みまし 塩原太助は、 明治時代に三遊亭円 (①亀戸天 裸一貫



燈籠 中期の歌舞伎役者で主に関西方面で活 あります。 方、 初代中村歌右衛門奉納万、浄心寺(平野2)にけ 初代歌右衛門は、 には、 江戸時代 2 石造 が

は、

各面に窓を持っています。また形とし

した。 躍しました。また、 柄の一つで悪役) の随一とうたわれま 実売され (歌舞伎の役



②石造燈籠 初代中村 歌右衛門奉納 浄心寺

## 寛永寺旧蔵の石造燈籠

提寺である寛永寺 籠が9基残されています。 方で区内には、江戸幕府将軍の菩 (台東区) 旧蔵の燈

将軍徳川家綱の死後に奉納した石造燈頼時が、延宝9年(一六八一)、四代 籠 には、飛騨国 す。その一つとして東覚寺 これらの多くは戦後移されたもので 3 があります。 (岐阜県) 高山藩主金森 (亀戸4



③石造燈籠 金森頼時奉 納寛永寺旧蔵 東覚寺

<u>,</u> 燈籠にも注目してください。 これ以外にも寛永寺旧蔵の 皆様も寺や神社を訪れる時には石造 本誓寺 などの寺院にも残されています。 守 (大島3)、持宝院では清澄3)、光明寺では清澄3)、光明寺では 文化財専門員 功刀俊宏) 石造燈籠 亀

4

は、

### 情報ステーション展示

#### ココに も歴史が あ つ た

#### (1月初旬~後半)

す。 懐炉がありがたく感じます。器具ですね。特に外出するに 61 月は、 捨てのものも多く使用されますが、 寒いこの時期に手放せない そんな暖房器具を展示しま 特に外出するときには、 最近は使 のが



行火 入れたり、 ました。 れたりして暖をとり 布団に入

#### 〈2月初旬~後半

示いたしますが、つい半世紀ほど前 するのはお櫃で、 昔は違いました。 きる一体型が普及しています。 炊く場合、いまは炊飯から保温までで で使われていました。 い間支え続けました。2月は羽釜を展 ましたが、これらは人々の生活を、 櫃に移しました。とても手間がかかり ご飯の時間は楽しいですね。 炊くのはお釜、 しゃもじを使って しかし、 お米を 保温 長 ま お



羽釜(台付) い発見があるかも してください。 れませんね。 展示品をよく観 新し